

活カづくり

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出
施策の将来の目標像	大学や試験研究機関が蓄積してきた知的資産の価値をより高め、優れた知的資源を様々な分野で一層活かしていくことで、イノベーションや地域連携により多くの社会課題を解決するような活力あふれる都市となっています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (H30年度)	目標値 (R6年度)
	4 大学との連携事業数	129 件	145 件

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 大学等の知的資源を活かしたイノベーションの創出環境の充実	主管部局・所属	総務部 政策推進監
関係部局・所属			

3 目指す姿と戦略

目指す姿	大学の知を社会につなぐイノベーション・エコシステムの構築	現状	大学と市が一体となったまちづくり推進体制の強化が必要	
課題	→	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
大学の特色を活かした地域社会課題解決に向けた取組みの具体化が明確になっていない		イノベーションの創出に向けた仕掛けやハブ(拠点)づくり	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)	目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R4	R5	R6		
(ア) スマートシティ共創コンソーシアム内のプロジェクト件数(計画期間累計)	0 (R3)	4	8	12	12 (R6)	件
(イ)	()				()	
(ウ)	()				()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R4年度		144,040				
		16,563				
R5年度		31,593				
		11,353				

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	2-1-7 Town&Gownプロジェクト推進事業	政策推進監	1.20	144,040	31,593
合計			1.20	144,040	31,593

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出	① 大学等の知的資源を活かしたイノベーションの創出環境の充実

事業の概要				
戦略	1	イノベーションの創出に向けた仕掛けやハブ（拠点）づくり	予算 31,593 千円	前年度 144,040 千円
事務事業	1-1	Town&Gown プロジェクト推進事業	予算 31,593 千円	前年度 144,040 千円

内容

1-1_Town & Gown プロジェクト「次世代学園都市構想に基づく新たなまちづくり」

①次世代学園都市構想に基づく事業展開(20,240 千円(前年度 16,540 千円))

「次世代学園都市構想」(令和3年度策定)に基づき、広島大学スマートシティ共創コンソーシアムによるエリアデザイン(展開エリア、まちづくり計画等)を実施する上で、地域(住民、地元企業)と情報を共有し、話し合いや一緒に考える場「(仮称)リビングラボ」の機能構築をはじめ、広島大学の周辺における新たな土地利用計画の検討を進めていく。

広島県と連携した「ゆとりと魅力ある居住環境の創出」も並行して取り組むほか、都市計画の見直しなども進めていくことで、目指すべき将来ビジョンの実現を目指す。

【期待する将来】

大学・研究機関・企業／「Town & Gown」の仕組み

【期待する将来】

- Well-being
- SDGs
- ポジティブピース

○世界から起業家や研究者が集まるまち

○新技術の社会実装と経済の好循環の実現

○ゆとりと魅力ある居住空間の実現

○「適散・適集社会」の新たな都市モデルの構築

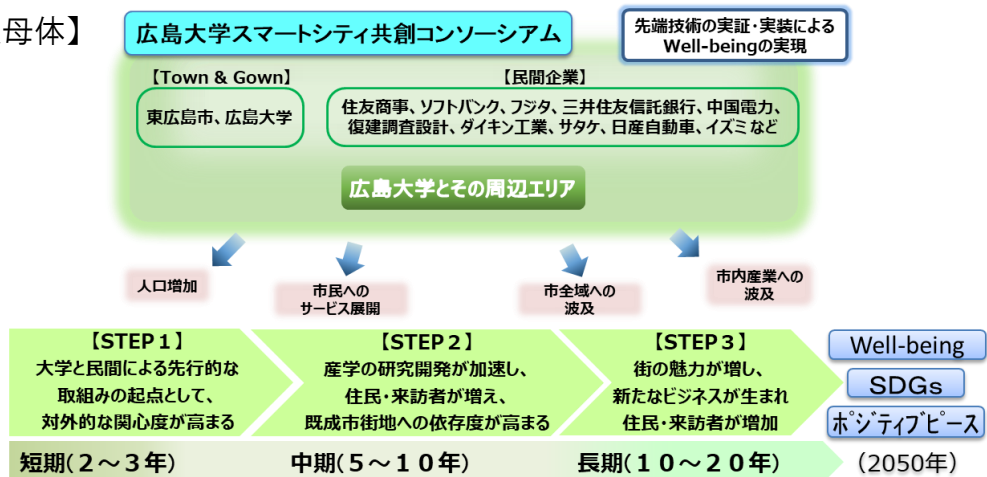
【新たな仕掛け】

- ・「Town & Gown」の推進
- ・スマートシティ共創コンソーシアムの形成(企業を呼び込む仕組み)
- ・大学と都市がセットで選ばれるための基盤形成

【3つの取組】

- ・イノベーションが起きる仕組みづくり
～快適性や利便性を含めた新たな価値の創出～
- ・グローバルスタンダードな生活環境づくり
～国際色豊かな魅力ある都市拠点の形成～
- ・人づくり(学びと実践)
～地域全体のグローバルな頭脳循環への参加～

【構想の推進母体】



事業の概要

【広島大学スマートシティ共創コンソーシアムの活動内容】

運営協議会及び5つの分科会(実務ベースでは更に小分科会)を構成し、基盤構築等の活動を推進

分科会No.1 共創コンソーシアム運営・企業誘致

- ① 事業戦略・調整
- ② 共創コンソーシアムメンバ補強
- ③ SkySong0ソフトメニュー・展開方針・資金調達
- ④ アカデミックエンタープライズ企業誘致

分科会No.5 CN・エネルギー

- ① 新街区エネルギー方針・周辺との広域連携・資源循環
- ② 学内脱炭素・カーボンニュートラル
- ③ ZEB化・エネルギー効率化
- ④ EV化

分科会No.4 モビリティ

- ① 自動運転・オンデマンド・ライトモビリティ
- ② リテイル協業(MaaS)
- ③ 物流
- ④ シェアードスペース(歩車共存空間)デザイン
- ⑤ 広域交通

分科会No.2 まちづくり

- ① 大学キャンパス内活性化
- ② キャンパス外エリア拡大(まちづくり)
- ③ 事業化
- ④ CCRC
- ⑤ インターナショナルスクール

分科会No.3 DX

- ① TGOアプリ(学生証・職員証デジタル化)
- ② 東広島市CRM連携・個人情報保護
- ③ 住民DX・ヘルスクエアDX・DX教育 (Next-GEN含む)
- ④ デジタルツイン・インフラデジタル基盤構築とその活用
- ⑤ 都市OS・Digital Platform
- ⑥ 通信インフラ構築

【今後のスケジュール】

分科会	2022年度	2023年度	2024年度
No. 1	・SkySongのイメージ固め ・コンソへの参画者集め	・SkySong0の設計(調整中) ・エリアマネジメントの法人化検討(←協議会をイメージ)	・SkySong0の建設(調整中) ・エリアマネジメントの事業化(↑リビングラボ運営)
No. 2	・開発における事業主体 ・「整備コンセプト」、「まちに備える機能」、「開発エリア」等の提案(エリアデザイン) ・リビングラボの形成(機能) ・地域住民との接点づくり ・FS調査(次年度継続)	・地元説明会 ・地権者との会合 ・地域イベントへの積極的な参画 ・リビングラボの設置(場所) ・関連法規制の関係者調整	・地元説明会 ・地権者との会合 ・地域イベントへの積極的な参画 ・リビングラボの運営 ・関連法規制の調整 ・土地利用計画案の作成 ・基本設計への着手
No. 3	・サービス連携基盤(CXプラットフォーム)の整備/TGOアプリ ・デジタルツイン構築のベース作り	・アプリの学内展開/市民への体験導入	・アプリの学内標準装備/市民への展開
No. 4	・キッチンカー/人流解析 ・域内交通の検討		
No. 5	・アクションプラン策定 ・省エネポテンシャル調査		

【((仮称)リビングラボ展開のイメージ】

主体\段階	STEP1 ～まちの構想段階～	STEP2 ～まちの構築段階～	STEP3 ～まちの運営段階～
学官産 (市+大学) (企業からも参加)	「Town&Gown」を広く発信 体制(仲間)づくり スカイソングの整備	活動・進捗を継続発信 構想実現に向けて合意形成 スカイソングとの連携・調整	運営段階の組織づくり
官	「Town&Gown」を広く発信 (市政としての位置づけ)	構想実現にむけてステークホルダーの調整	運営に協力・支援
学	参画体制の検討	実践研究・アイデア出し	運営に参画・実践研究
民産	「Town&Gown」の認知	まちの課題・アイデア出し 土地・資産の活用検討	運営に参画



リビングラボの
立ち上げ(組成&場所設置)

地域課題と開発技術の
マッチング

エリアマネジメント
組織として展開

【新】②国際学術研究都市としての総合的な魅力づくりに向けた連携強化(11,353 千円)

「Town & Gown」のモデルとしているテンピ市・アリゾナ州立大学を訪問・交流すると共に、令和4年8月に開設したアリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営大学院広島大学グローバル校の活性化、地元自治体であるテンピ市との連携を強化し、国際学術研究都市としての魅力づくりを進めていく。

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出
施策の将来の目標像	大学や試験研究機関が蓄積してきた知的資産の価値をより高め、優れた知的資源を様々な分野で一層活かしていくことで、イノベーションや地域連携により多くの社会課題を解決するような活力あふれる都市となっています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (H30年度)	目標値 (R6年度)
	4 大学との連携事業数	129 件	145 件

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 大学との連携によるまちづくりの推進	主管部局・所属	総務部 政策推進監
関係部局・所属			

3 目指す姿と戦略

目指す姿	大学との有機的な連携の促進	現状	まちづくりにおける大学との一層の連携が必要	
課題		仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
大学の強みを活かした連携が不十分	→	大学の特色を活かしたまちづくり	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) 4大学との連携事業数	129 (H30)		139	142	145	145 (R6)	件
(4) COMMONプロジェクト の認定件数(累計)	5 (R3)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	10	20	35	35 (R6)	件
(ウ)	()					()	件

5 コスト情報

目的別 事業群 事業費 (千円)		当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R 4 年度		10,368				
		5,958				
R 5 年度		36,155				
		3,253				

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	2-1-7 大学連携推進事業	政策推進監	1.20	10,368	36,155
合計			1.20	10,368	36,155

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱		施策		目的別事業群													
4 活力づくり		1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出		② 大学との連携によるまちづくりの推進													
事業の概要																	
戦略	1	大学の特色を活かしたまちづくり	予算	36,155 千円	前年度 10,368 千円												
事務事業	1-1	大学連携推進事業	予算	36,155 千円	前年度 10,368 千円												
内容																	
1-1_大学との連携の推進																	
<p>大学と市との組織的な連携の支援や連携事業の推進に関する内部調整及び事業整理を行うほか、市内4大学の代表者とのトップミーティングを行うとともに、大学の特色づくりや魅力づくりを支援するなど、より強力な戦略的パートナーシップを構築しながら大学との連携事業を推進する。</p> <p>①市内大学への Town & Gown の展開(15,818 千円 (前年度 17,768 千円))</p> <p>大学と市が共同で地域社会における課題の解決に取り組むため、市内大学に Town & Gown Office を設置し、大学との研究推進体制・機能の充実強化を行うほか、大学との連携による魅力あるまちづくりを進め、より強力な戦略的パートナーシップを構築しながら大学との連携事業を推進する。</p> <p>ア 広島大学 (うち 9,500 千円)</p> <p>国際的研究拠点東広島の形成に向けた取組み及び大学と一体となったまちづくりマネジメントを推進するため、広島大学と共同で Town & Gown Office を運営し、地域社会の課題解決に向けた活動への支援を行う。</p> <p>【Town & Gown Office 活動内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>COMMON プロジェクト</td> <td>東広島市役所 14 の業務部署が抱える課題と各教員の科研費等研究テーマとのマッチング</td> </tr> <tr> <td>新たなまちづくり(次世代学園都市構想)</td> <td>産学官民連携によるスマートシティ化、ゆとりある居住空間、東広島版スカイソング(企業との共同研究拠点)等(カーボンニュートラル/スマートキャンパス 5.0)</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 近畿大学工学部 (うち 5,500 千円)</p> <p>地域のより一層の活性化に向け、近畿大学工学部と共同で Town & Gown Office を運営し、大学・市内企業・市が一体となり、産学連携強化の推進や人材育成、地域社会の課題解決に向けた活動への支援を行う。</p> <p>【Town & Gown Office 活動内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>COMMON プロジェクト</td> <td>東広島市役所 14 の業務部署が抱える課題と各教員の科研費等研究テーマとのマッチング</td> </tr> <tr> <td>DX 活用による地域課題解決プロジェクト</td> <td>地元企業と連携し、e-スポーツやメタバース等の研究による地域課題解決(ヘルスケア、多世代交流等)に取り組む。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他、西高屋駅前活性化プロジェクトなど</p>						項目	概要	COMMON プロジェクト	東広島市役所 14 の業務部署が抱える課題と各教員の科研費等研究テーマとのマッチング	新たなまちづくり(次世代学園都市構想)	産学官民連携によるスマートシティ化、ゆとりある居住空間、東広島版スカイソング(企業との共同研究拠点)等(カーボンニュートラル/スマートキャンパス 5.0)	項目	概要	COMMON プロジェクト	東広島市役所 14 の業務部署が抱える課題と各教員の科研費等研究テーマとのマッチング	DX 活用による地域課題解決プロジェクト	地元企業と連携し、e-スポーツやメタバース等の研究による地域課題解決(ヘルスケア、多世代交流等)に取り組む。
項目	概要																
COMMON プロジェクト	東広島市役所 14 の業務部署が抱える課題と各教員の科研費等研究テーマとのマッチング																
新たなまちづくり(次世代学園都市構想)	産学官民連携によるスマートシティ化、ゆとりある居住空間、東広島版スカイソング(企業との共同研究拠点)等(カーボンニュートラル/スマートキャンパス 5.0)																
項目	概要																
COMMON プロジェクト	東広島市役所 14 の業務部署が抱える課題と各教員の科研費等研究テーマとのマッチング																
DX 活用による地域課題解決プロジェクト	地元企業と連携し、e-スポーツやメタバース等の研究による地域課題解決(ヘルスケア、多世代交流等)に取り組む。																

ウ 広島国際大学（うち0千円）

市と大学が一体となって健康なまちづくりを行うため、Town & Gown の広島国際大学への展開を推進するとともに、地域社会の課題解決や地域住民が大学の知見を体験できる機会の創出を目指す。

②COMMONプロジェクト(15,000千円（前年度18,000千円）)

市内大学の知的・人的資源を活用し、行政課題の解決や重点施策の推進に向けた共同研究を行う。

- ・初期支援型 50万円×5件×2大学
- ・行政課題解決型共同研究 4件程度

【拡】③エリザベト音楽大学との連携(5,337千円（前年度2,100千円）)

エリザベト音楽大学と大学の特色に応じた連携体制を構築し、大学を活かしたまちづくりを推進するため、エリザベト音楽大学が実施するコンサート等に係る費用を補助する。（補助率：10/10以内）

ア 親子コンサート(年1回)（うち1,256千円）

内容：0歳児から親子で一緒に楽しめる
参加型コンサート

場所：東広島芸術文化ホールくらら



親子コンサート

イ 美術館コンサート（年1回）

（うち150千円）

内容：美術館で行われる展示企画に合わせた
音楽とのコラボレーションコンサート
（ロビーなどで実施）

場所：東広島市立美術館



美術館コンサート

ウ 市内中学校の音楽関連部活動への支援（年1回）（うち866千円）

内容：大学の専門技術を活かして中学校の音楽関連部活動への技術指導、交流活動を行う。

場所：市内中学校（市内各中学校の吹奏楽部等、参加生徒約300名）

エ 地域コンサート（市制50周年イベント）（うち3,065千円）

内容：地域でのコンサートを実施し、文化芸術に関わる地域振興を図る。第一弾として、エリザベト音楽大学西条キャンパスの位置する御菌宇地域において、同大学創立75周年を記念した金管楽器等によるコンサートを実施する。

場所：吾妻子の滝公園（西条町御菌宇）



エリザベト音楽大学
西条キャンパス

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	2 多様な豊かな市民の力が輝くまちづくり
施策の将来の目標像	国内外から様々な人材が集まり、それぞれの多様性を活かしながら、あらゆる場面で活躍をしています。また、転出者を含め、市外に暮らす方々も、東広島市に愛着を持ち、何らかの関わりを持ちながら本市の活力づくりに寄与しています。		
施策の数値目標	指標	現状値	目標値 (R6年度)
	市がコーディネートした学生の地域活動件数(年間)	24件(H30年度)	30 件
	人口の社会増加数	364人/年 (H22~30年度の平均)	400人/年

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 多様な人材力が発揮できる環境の充実	主管部局・所属	総務部 政策推進監
関係部局・所属			

3 目指す姿と戦略

目指す姿	学生の地域活動の促進	現状	学生をはじめとした人材の力が発揮できる環境が整っていない	
課題	→	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
学生が地域を知る機会が少ない 学生と地域との交流・連携が少ない		学生と地域との交流連携の促進	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)	目標値及び実績値	目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) 市がコーディネートした学生の地域活動件数(年間)	24 (H30)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	28	29	30	30 (R6)	件
(イ)	()					()	
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費(千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R4年度			18,100			
			18,100			
R5年度			18,100			
			1,800			

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	2-1-7 学生の地域交流連携促進事業	政策推進監	0.60	18,100	18,100
合計			0.60	18,100	18,100

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価


総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	2 多様な市民の力が輝くまちづくり	① 多様な人材力が発揮できる環境の充実

事業の概要				
戦略	1 学生と地域との交流連携の促進	予算	18,100 千円	前年度 18,100 千円
事務事業	1-1 学生の地域交流連携促進事業	予算	18,100 千円	前年度 18,100 千円
内容				
1-1_学生と地域との交流・連携の促進				
①広島県留学生生活躍支援センターの運営費負担 (1,500 千円 (前年度 1,500 千円))				
留学生の受入促進や生活・就職支援を一元的に行う広島県留学生生活躍支援センターの活動を通じて、留学生の受入促進及び生活・就職を支援する。				
※会員：大学、短期大学及び高等専門学校、日本語専門学校、 行政機関、経済団体及び国際交流団体				
市内留学生の推移 (単位:人)				
H30	R1	R2	R3	R4
1,494	1,680	1,766	1,374	1,072
※住民基本台帳在留資格が「留学」であるもの(各年3月末の人数)				
※R4.12 末時点で1,828人				
				
就職活動実践セミナー (東広島会場)				
②学園都市づくり交流会議の運営 (16,600 千円 (前年度 16,600 千円))				
大学と地域との交流を通じて、相互理解と親睦を深め、大学の地域への定着を促進し、文化の薫り高い学園都市づくりに寄与するため、大学、市、関係機関で組織する学園都市づくり交流会議を運営する。				
※構成団体：				
広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学、東広島市、 東広島商工連絡協議会、広島中央農業協同組合、 一般社団法人東広島青年会議所、東広島市スポーツ協会、 東広島市文化連盟、公益財団法人東広島市教育文化振興事業団				
学生数の推移(市調べ) (単位:百人)				
H30	R1	R2	R3	R4
168.0	166.8	169.8	172.1	172.4
※広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学の市内キャンパスにおける学生数				

事業の概要

ア 学生の拠点づくり（町家プロジェクト）（うち 6,550 千円）

西条酒蔵通りの町家における学生のDIY活動等の定期的な企画やアントレプレナー教育の研究活動等を通じて、学生の活動拠点形成や学生の活動を中心とした賑わいの創出を図る。

（概要）

- ・所在地 東広島市西条本町8-11
- ・建物構造 木造瓦葺2階建
- ・延床面積 304.13平方メートル
(1階 155.37㎡ 2階 148.76㎡)



(ア) アントレプレナー教育に関する授業での活用（一部大学負担）

広島大学の授業（「地域おこし実習」「イノベーション演習」等）において、ものづくりの実習やワークショップの開催を行う。

(イ) 学生によるDIY改修

広島大学工学部・教育学部の学生を中心として、市内3大学の希望学生により、壁面修復、2階床の一部撤去など、学生が自らものづくりに関わるDIYによる改修を行う。

- ・DIY用機械、工具、資材、塗料等

(ウ) 学生企画イベントの実施

学生が本市をフィールドとして、活動企画・実践を通して自らの成長を図るとともに、こうした活動をまちの活力につなげていくため、学生自らが企画した活動を実践するためのノウハウを学んでいく。

- ・定期企画実施に係る経費及びコーディネート料等

【拡】(エ) 多様な主体と連携した地域振興イベントの実施

酒蔵との連携、SDGsパートナーとの連携などにより、地域振興に資する様々な企画を催し、学生の企画立案能力向上を目指すとともに、アントレプレナーの表現の場とする。

- ・シェアサイクル、フードドライブ、蔵びらきイベント内の企画など

【活動指標】 町家を活用した定期的な企画実施 年15回

(DIY累計50名、企画400名程度の参加を想定)

イ 学生の地域活動の促進（うち 2,737 千円）

大学・学生と地域との交流・連携を促進し、学生の成長や学生の地域への愛着を促進するため、学生が地域での様々な活動や体験が可能となる機会の創出を図るとともに、地域で主体的に活動するための支援を行う。

(7) 地域体験ツアーの実施

学生が地域や地域活動に興味関心を持つきっかけとなる地域体験ツアーを開催する。
(年5回程度)



(福富梅収穫体験スクール)

(イ) 学生の主体的な活動への支援

学生の主体的な地域活動を促進するため、本市をフィールドとした学生の活動を支援する。

- ・補助率：10/10 以内（上限額：50 千円）

(ウ) 学生ローカルパートナー制度

地域をフィールドにして学生と地域との連携による活動を行う学生団体を「学生ローカルパートナー」として認定し、伴走的な支援を行う。学生同士の意見交換や企画・プロジェクトの検討から実施までを行う過程を通して、他大学や他団体の学生等によるネットワーク構築及び交流促進を行うとともに、学生同士が連携した新たな活動や地域課題の解決にチャレンジできる場を創出する。

ウ 学生と地域とのコーディネート機能の充実（うち 5,132 千円）

学生と地域との連携促進を図るため、地域ニーズなどの情報収集・情報発信を行うとともに、地域課題と学生の地域活動のマッチング等を行う。

(ア) スポーツによる学生と地域のつながり

広島大学スポーツセンターを中心とした「東広島市スポーツ健康まちづくりコンソーシアム」が実施する事業において、学生の指導経験の場とするとともに、大学体育会などの学生団体の派遣など、学生と地域との交流機会をコーディネートすることで、指導者不足の解消やスポーツ少年団の技術向上などの地域課題に取り組む。

(イ) シンポジウムの開催

これまでの市と学生が取り組んできた地域活動について、行政や連携先（NPO法人ひろしまジン大学、広島大学マスターズなど）、大学教員、学生、コーディネーターそれぞれの視点から意見交換し、今後の具体的な活動に繋げていく。

- ・ワークショップの開催



(学生×地域の連携シンポジウム)



(学生地域活動団体と市職員の意見交換会)

事業の概要

エ 大学と地域との融合促進（うち 2,181 千円）

(7) 地域と大学との交流を促進する活動への支援

本市の学園都市づくりへの市民参画を促すため、大学等が主催する地域と大学の一体感の醸成が期待されるイベントを支援する。

また、大学や学生が開催するイベント等に関する広報支援を行う。

(1) 学生に向けた情報提供の充実

学生の地域活動支援等や暮らしに関する情報提供を行う。

新入生に対し、本市の魅力を伝えるための情報誌の配布を行う。

【活動指標】 コーディネートした学生活動数 29 件

学生ローカルパートナー 10 団体程度

その他イベント開催等への支援、広報協力、相談受付など

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	2 多様な市民の力が輝くまちづくり
施策の将来の目標像	国内外から様々な人材が集まり、それぞれの多様性を活かしながら、あらゆる場面で活躍をしています。また、転出者を含め、市外に暮らす方々も、東広島市に愛着を持ち、何らかの関わりを持ちながら本市の活力づくりに寄与しています。		
施策の数値目標	指標	現状値	目標値 (R6年度)
	市がコーディネートした学生の地域活動件数(年間)	24件(H30年度)	30件
	人口の社会増加数	364人/年 (H22~30年度の平均)	400人/年

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 移住・定住の促進とにぎわいや交流の創出	主管部局・所属	地域振興部 地域づくり推進課
関係部局・所属	建設部	建設管理課	

3 目指す姿と戦略

目指す姿	国内外から様々な人材が集まり、それぞれの多様性を活かしながら本市の活力づくりに寄与する。	現状	特に人口減少地域において高齢化・人口減少が進み、活力が失われつつある。	
課題	仮説に基づく戦略		寄与度	戦略No.
移住検討者に対し地域の魅力を効果的に発信し、多様化するニーズに応じた相談体制を構築すること	人口減少地域への移住・定住の促進		高	1
海岸地域の魅力の発信を効果的に行い、賑わいや消費、交流の起点となる場所を整備すること	海を活かしたにぎわい創出機能の形成		低	2

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) 定住サポートセンターへの移住相談件数	31 (H30)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	52	54	56	56 (R6)	件
(イ) 定住サポートセンター相談者の移住世帯数	8 (H30)		26	27	28	28 (R6)	世帯
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
	4年度		18,898			
			14,698			
	5年度		33,288			
			24,068			

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	2・1・9 移住促進広報事業	地域づくり推進課	0.50	4,269	4,270
1-2	2・1・9 移住者等支援事業	地域づくり推進課	0.75	11,775	21,775
2-1	8・4・2 港湾沿岸地域再編事業	建設管理課	0.50	2,854	7,243
合計			1.75	18,898	33,288

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」） ※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	<h1>決算時記載</h1>
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	2 多様な市民の力が輝くまちづくり	② 移住・定住の促進とにぎわいや交流の創出

事業の概要			
戦略	1 人口減少地域への移住・定住の促進	予算 26,045 千円	前年度 16,044 千円
事務事業	1-1 移住促進広報事業	予算 4,270 千円	前年度 4,269 千円

内容

1-1_移住・定住の促進に向けた情報発信

① 移住促進特設ウェブサイトによる移住関連情報の発信

(3,891 千円 (前年度 3,891 千円))

移住促進特設ウェブサイトを運営し、ウェブ広告配信等を活用し本市の魅力を発信する。



移住促進特設ウェブサイト（風と自由と東広島）のトップページ

② 広島県交流・定住促進協議会等と連携した定住フェア等による移住関連情報の発信 (379 千円 (前年度 378 千円))

広島県、広島県交流・定住促進協議会、広島広域都市圏と連携し、東京における定住フェア・セミナーにおいて移住検討者に対し本市の魅力を発信する。



定住フェアの様子

事業の概要				
戦略	1	人口減少地域への移住・定住の促進	予算 26,045 千円	前年度 16,044 千円
事務事業	1-2	移住者等支援事業	予算 21,775 千円	前年度 11,775 千円

内容

1-2_移住・定住の促進に向けた支援

- ① 定住サポートセンターによる総合相談窓口の運営
(175 千円 (前年度 175 千円))

移住検討者が求める住まい、仕事、子育てなどの情報提供や相談をワンストップで受け付け、関係部局と連携し相談内容の解決を図る。

- ② 移住者等に対する各種補助金の交付 (21,600 千円 (前年度 11,600 千円))

【拡】ア 移住支援金の交付 (うち 6,600 千円)

デジタル田園都市国家構想交付金制度を活用し、東京圏から市内に移住し、かつ市内へ就業に至った者または起業等をする者に対し支援金を交付する。

【支援金 (定額) : 単身世帯 60 万円、2 人以上世帯 100 万円、子育て加算 100 万円 (18 歳未満の世帯員を帯同して移住する場合は 18 歳未満の者一人につき加算)】

【活動指標】

単身世帯 1 件、2 人以上世帯 2 件

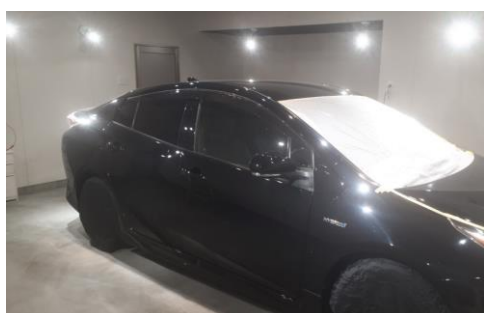
【拡】イ 移住者等創業支援事業補助金の交付 (うち 15,000 千円)

人口減少地域における産業の活性化及び定住の促進を図るため、移住者又は移住予定者 (市内の人口減少地域外からの転居者も含む) が、市内人口減少地域において新たに創業する場合に、店舗、事務所等の改修費、設備費、備品購入費の一部を補助する。

【補助率 : 1/2、補助限度額 : 300 万円】

【活動指標】

5 件



補助金を活用し創業した移住者
(専門技術サービス業 (車のコーティング))



補助金を活用し創業した移住者
(飲食業)

事業の概要																
戦略	2	海を活かしたにぎわい創出機能の形成	予算 7,243 千円	前年度 2,854 千円												
事務事業	2-1	港湾沿岸地域再編事業	予算 7,243 千円	前年度 2,854 千円												
内容																
<p>2-1_港湾周辺施設の整備</p> <p>プレジャーボート等、海を活かせる環境づくりに向けて放置艇対策を推進する。</p> <p>① 放置艇の整理</p> <p>ア 小型船舶用泊地の検討</p> <p>イ 使用料の検討</p> <p>ウ 施設の利用方法の検討</p> <p>② 放置禁止区域看板作成・設置業務（7,243 千円（前年度 0 千円））</p> <p>港湾沿岸地域の放置禁止区域を周知するため、小型船舶用泊地の放置禁止区域を掲載した看板を作成・設置する。</p> <p>放置艇対策スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>泊地測量・泊地指定</td> <td>看板作成・設置</td> <td>許認可事務開始 (使用料徴取なし)</td> <td>使用料徴取開始</td> </tr> </tbody> </table> <p>【活動指標】</p> <p>条例改正</p> <p>放置禁止区域看板作成・設置 60 箇所</p>					R4	R5	R6	R7	●	●	●	●	泊地測量・泊地指定	看板作成・設置	許認可事務開始 (使用料徴取なし)	使用料徴取開始
R4	R5	R6	R7													
●	●	●	●													
泊地測量・泊地指定	看板作成・設置	許認可事務開始 (使用料徴取なし)	使用料徴取開始													

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	3 都市成長基盤の強化・充実
施策の将来の目標像	東広島市の中心地は、市の玄関口として市内外から人びとが集い、憩い、多様な活動が繰り広げられるエリアとなっています。また、各地域では良好な景観が形成され、市民の郷土への誇りや愛着が育まれています。さらに、企業が活発な研究開発と生産活動を展開できる産業用地が確保され、都市としての活力の源となる新たなビジネスが創出される基盤が整っています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R6年度)
	新たに確保した産業用地の面積 (計画期間累計)	0 ha	10 ha

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① にぎわいと魅力ある都市空間の形成	主管部局・所属	都市部 都市計画課
関係部局・所属	総務部 政策推進監	産業部	ブランド推進課
	産業部 産業振興課		

3 目指す姿と戦略

目指す姿	交通結節点となる西条駅や、特徴的な景観を有する酒蔵地区、プールバール通り沿いに立地する多様な施設を活かし、魅力ある中心市街地の形成を図る。	現状	中心市街地の人通りが少なく、賑わいや活気がない。	
課題	仮説に基づく戦略		寄与度	戦略No.
散策したくなる・歩いて楽しめるコンテンツの不足	中心市街地の賑わい創出		中	1
交流・イベント・スポーツ・文化活動等、多様な用途に活用できる自由度の高い場所が少ない	中心市街地の公有地デザイン		中	2

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) 酒蔵地区の観光客数 (西条酒蔵通り観光案内所の来訪者数)	34,412 (H28)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	41,500	42,200	43,000	43,000 (R6)	人
(イ)	()					()	
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R4年度			54,736			
			27,736			
R5年度			38,991			
			19,065			

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	8・5・1 景観形成事業	都市計画課	2.50	42,488	28,488
2-1	2・1・7 プロジェクト推進事業	政策推進監	2.00	12,248	10,503
合計			4.50	54,736	38,991

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	3 都市成長基盤の強化・充実	① にぎわいと魅力ある都市空間の形成

事業の概要				
戦略	1 中心市街地の賑わい創出	予算	28,488 千円	前年度 42,488 千円
事務事業	1-1 景観形成事業	予算	28,488 千円	前年度 42,488 千円

内容

1-1_景観を活かしたまちづくりの推進

① 西条本通線の美装化（23,600 千円（前年度 37,600 千円））

酒蔵地区の街並みと調和した景観保全のため、西条本通線の美装化を進める。



② 酒蔵地区の景観形成（4,014 千円（前年度 4,014 千円））

酒蔵地区における登録文化財や歴史的建造物などについて、景観形成事業補助金により支援を行う。

【活動指標】

景観形成事業補助金交付件数（累計）：10 件 → 12 件

③ 白市地区の景観形成（874 千円（前年度 874 千円））

歴史的な街並みが残る白市地区の交流拠点である白市交流会館を管理運営することなどにより、地域の賑わい創出と地域の活力向上を図る。

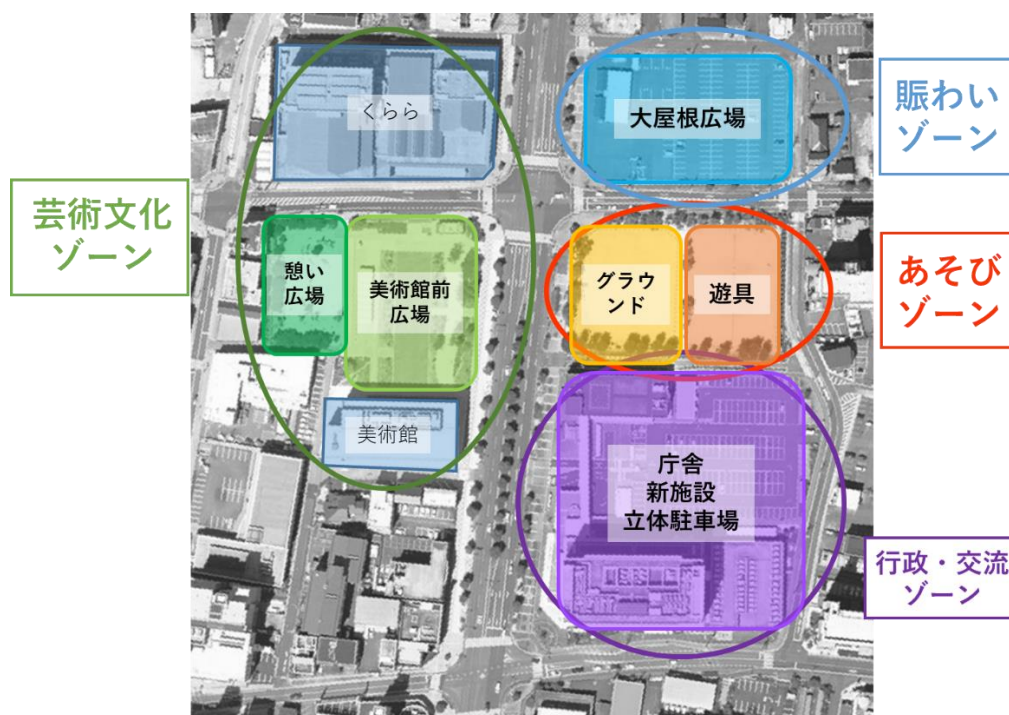
事業の概要				
戦略	2	中心市街地の公有地デザイン	予算 10,503 千円	前年度 12,248 千円
事務事業	2-1	プロジェクト推進事業	予算 10,503 千円	前年度 12,248 千円

内容

2-1_プロジェクトの推進

① 新施設・多目的広場の整備（6,349 千円（前年度 11,948 千円））

中央生涯学習センター跡地及び周辺公有地の活用にあたり、基本計画の策定を進めるとともに、新施設等の整備に向けて必要な調査を実施する。



中央生涯学習センター跡地及び周辺公有地活用ゾーニング案

② その他（4,154 千円（前年度 300 千円））

ア 都市再生整備計画（西条駅周辺地区）事後評価（うち 3,854 千円）

- ・事業の評価結果を取りまとめた事後評価を実施

イ 中央生涯学習センター跡地の維持管理（うち 300 千円）

- ・中央生涯学習センター跡地維持管理のための修繕費

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	3 都市成長基盤の強化・充実
施策の将来の目標像	企業が活発な研究開発と生産活動を展開できる産業用地が確保され、都市としての活力の源となる新たなビジネスが創出される基盤が整っています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (R 1 年度)	目標値 (R 6 年度)
	新たに確保した産業用地の面積 (計画期間累計)	0ha	10ha

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 新たな産業基盤の整備	主管部局・所属	産業部	産業振興課
関係部局・所属				

3 目指す姿と戦略

目指す姿	研究開発と生産活動が展開できる産業用地の確保	現状	企業の用地確保ニーズがある	
課題	→	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
企業が立地できる新たな用地が不足している		新たな産業基盤の整備	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) 着工予定の産業用地の面積 (計画期間累計)	0 (R1)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	33.5	35.5	37.5	累計37.5 (R6)	ha
(4) 新たに確保した産業用地の面積 (計画期間累計)	0 (R1)		42.6	44.6	46.6	累計46.6 (R6)	ha
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R 年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
	4 年度		111,956			
			59,956			
	R 年度		48,502			
	5 年度		46,502			

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	7.1.3 産業用地環境整備事業	産業振興課	2.00	111,956	48,502
合計			2.00	111,956	48,502

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	3 都市成長基盤の強化・充実	② 新たな産業基盤の整備

事業の概要					
戦略	1 新たな産業基盤の整備	予算	48,502 千円	前年度	111,956 千円
事務事業	1-1 産業用地環境整備事業	予算	48,502 千円	前年度	111,956 千円
内容					

1-1_産業用地確保の取組み

① 産業基盤の整備に向けた検討（38,502 千円（前年度 111,956 千円））

ア 産業用地の整備検討

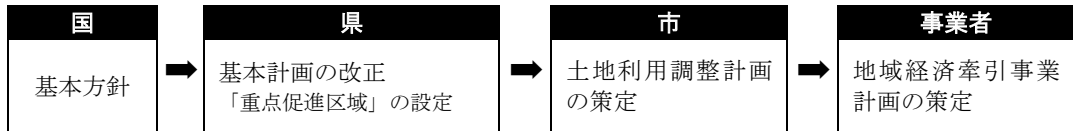
庁内の横断的組織である「産業用地整備プロジェクトチーム」において、吉川地区及び志和 IC 周辺などにおける産業基盤の整備に向けた設計業務や事業スキームの検討を行う。地域未来投資促進法*等を活用し、県、市と事業者の連携により地域発展の基盤整備に取り組む。

令和4年度	令和5年度	令和6年度以降
<ul style="list-style-type: none"> 基本調査 概略調査 	<ul style="list-style-type: none"> 概略調査 事業実施場所及び事業スキームの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用調整計画の策定 地域経済牽引事業計画の策定

※地域未来投資促進法（地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律）

地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者に対して経済的効果を及ぼすことにより地域経済を牽引する事業を支援するもの。

【各主体の役割】



【拡】イ 産業用地開発助成制度の拡充

民間企業の立地ニーズに対応するため、民間の用地開発に対する支援制度を拡充する。

項目	現 行	拡 充 分
対象要件	5,000 m ² 以上の民間遊休地を新規に購入または賃借し、自社で事業を行うための工場等を建設する者	対象用地内（既存敷地含む）で10億円以上の投資を行う場合
助成率	25/100	50/100
上限額	5,000 万円	5,000 万円 ※造成を伴う場合は、1億円
対象経費	<ul style="list-style-type: none"> 土地の造成 既存建物等の撤去 進入路の整備 インフラ整備（電気・上下水の引込み等） 	

※助成金の交付時期を造成工事終了後から操業開始後に変更した。これに伴い、令和5年度においては、あらかじめ予算を確保していない。

【新】② 半導体関連産業の振興（10,000千円（前年度0千円））

広島県や広島大学、民間企業等と連携して、半導体関連産業の技術革新や人材育成に取り組む「せとうち半導体共創コンソーシアム」に参画し、市内半導体産業の振興に取り組む。



イメージ図

【せとうち半導体コンソーシアムの目指す姿】

広島大学ナノデバイス研究所を中心に、国内外の人材や企業・研究機関等が集まり、世界最先端の技術開発を進めるとともに、俯瞰的な視点と高度な専門知識を持ち企業・研究機関で活躍する人材の育成を推進する。

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活気づくり	施策	4 交通ネットワークの強化
施策の将来の目標像	鉄道や路線バス、広島空港など広域移動も見据えた交通結節機能・広域的な道路ネットワークが強化され、主要拠点間が最適な移動手段で接続されています。日常生活において公共交通の重要性・必要性が広く市民に再認識されています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (H30年度)	目標値 (R6年度)
	国県道整備率	15%	39%

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 公共交通ネットワークの強化・充実	主管部局・所属	地域振興部 地域政策課
関係部局・所属	河内支所	地域振興課	安芸津支所 地域振興課
	都市部	都市整備課	

3 目指す姿と戦略

目指す姿	広域移動を見据えた交通結節機能・広域的な道路ネットワークが強化され、主要拠点間が最適な移動手段で接続	現状	高い自動車分担率が続き、公共交通利用が低迷、交通事業収益が悪化		
課題		仮説に基づく戦略		寄与度	戦略No.
都市の拠点性・経済循環を支える交通機能の不足 乗りにくさ(運賃、路線本数)、交通事業者の収益性の悪化		公共交通機能の強靱化による利便性の向上		中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) 1日当たりJR乗車人員	23,617 (H30)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	25,508	25,551	25,600	25,600 (R6)	
(4)	()					()	
(7)	()					()	

5 コスト情報

目的別 事業群 事業費 (千円)		当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R 4 年 度		1,011,253				
		285,723				
R 5 年 度		1,423,567				
		300,042				

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	2・1・7 公共交通網形成事業	地域政策課	3.00	367,205	321,401
1-2	2・1・7 公共交通網形成事業(河内支所)	河内支所地域振興課	0.30	14,196	5,488
1-3	2・1・7 公共交通網形成事業(安芸津支所)	安芸津支所地域振興課	2.10	6,817	7,336
1-4	8・5・2 交通結節点改善事業	都市整備課	2.00	623,035	1,089,342
合計			7.40	1,011,253	1,423,567

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

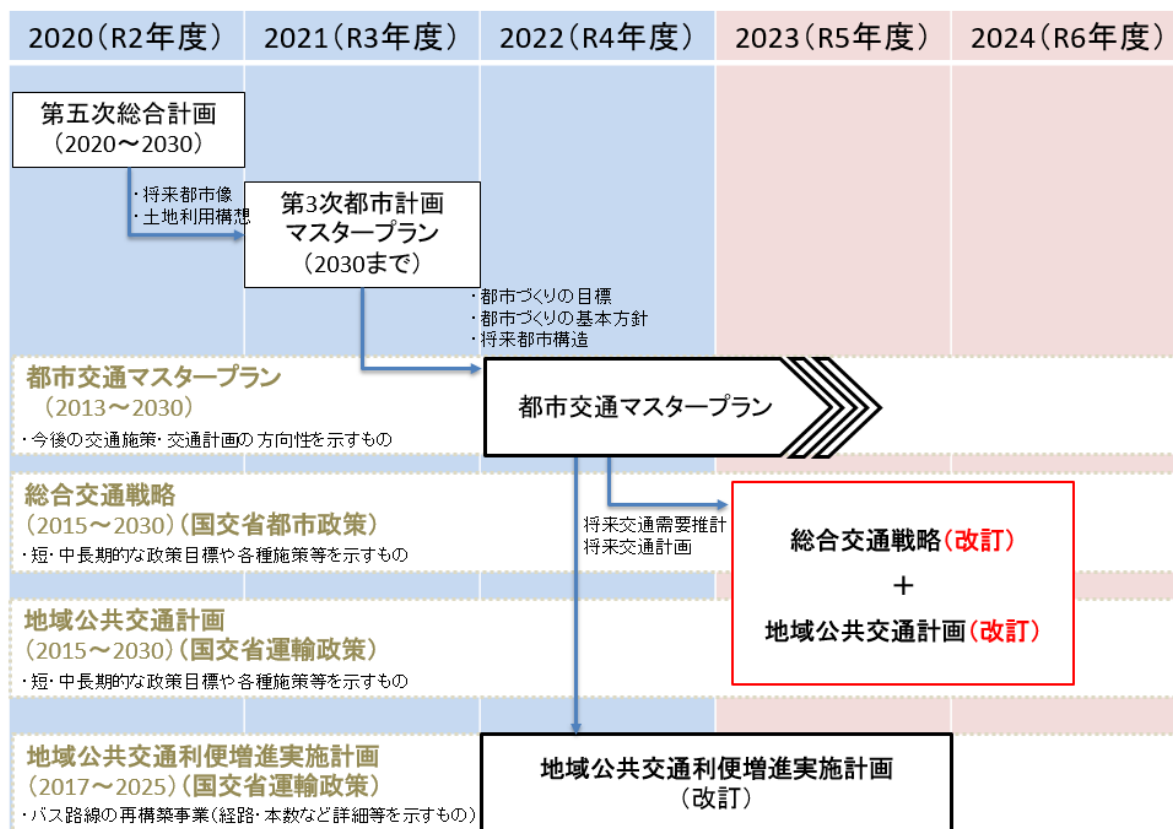
概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	4 交通ネットワークの強化	① 公共交通ネットワークの強化・充実

事業の概要			
戦略	1 公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算 1,423,567千円	前年度 1,011,253千円
事務事業	1-1 公共交通網形成事業	予算 321,401千円	前年度 367,205千円
内容			
1-1_公共交通網の形成			
① 交通結節機能の強化と空港対策（101,238千円（前年度 124,711千円））			
ア バス交通結節点の整備			
利便性と路線再編による運行効率の向上を図るため、バス交通結節点の整備・維持管理を行う。			
(ア) 下見・鏡山地区交通結節点（うち 75,527千円）			
施設管理、構内道路機能向上（L=680、W=14）			
(イ) 黒瀬地区交通結節点（うち 1,978千円）			
工事用土地賃借等			
【新】(ウ) 志和地区交通結節点（うち 15,220千円）			
地質・地形測量調査			
イ 空港対策（広島空港整備事業負担金）（うち 4,235千円）			
県、隣接自治体と連携を図り、広島空港の滑走路端安全区域の整備等、空港機能の改善及び維持に係る整備費を負担する。			
ウ 海路対策（うち 4,278千円）			
安芸津港～大西港（大崎上島町）運航に係る支援を行う。			
② 鉄道輸送の強化（14,801千円（前年度 14,016千円））			
ア 寺家駅の維持管理（うち 14,644千円）			
駅の待合環境と快適性の向上を図るため、適正な管理を行う。			
③ バス交通の維持・強化（196,362千円（前年度 220,478千円））			
ア 市内路線バス運行経費に対する支援（うち 188,176千円）			
本市の移動の骨格である幹線交通を支えるため、路線バス交通事業の維持・強化を図る。			
イ 東広島市地域公共交通利便増進実施計画の改訂（うち 8,186千円）			
持続可能なバス交通網の構築に向けて、東広島市地域公共交通利便増進実施計画の改訂を行う。			

事業の概要

【拡】④ 東広島市総合交通戦略・東広島市地域公共交通計画の改訂（9,000 千円）
改訂する都市交通マスタープランに即して、東広島市総合交通戦略・東広島市地域公共交通計画の改訂を行う。



事業の概要			
戦略	1	公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算 1,423,567千円 前年度 1,011,253千円
事務事業	1-2	公共交通網形成事業(河内支所)	予算 5,488 千円 前年度 14,196 千円
内容			
<p>1-2_公共交通網の形成(河内支所)</p> <p>① 広島空港周辺対策(5,488千円(前年度14,196千円))</p> <p>ア 広島空港周辺整備</p> <p>空港周辺環境の配慮を講じるため、県と連携を図り、周辺地域の住宅への空調対策、道路等安全対策・周辺環境保全、公共施設を活用した地域振興策を進める。</p>			

事業の概要			
戦略	1	公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算 1,423,567千円 前年度 1,011,253千円
事務事業	1-3	公共交通網形成事業(安芸津支所)	予算 7,336 千円 前年度 6,817 千円
内容			
<p>1-3_公共交通網の形成(安芸津支所)</p> <p>① 安芸津駅の維持管理(7,336千円(前年度6,817千円))</p> <p>駅の待合環境と快適性の向上を図るため、適正な管理を行う。</p>			

事業の概要			
戦略	1	公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算 1,423,567千円 前年度 1,011,253千円
事務事業	1-4	交通結節点改善事業	予算 1,089,342千円 前年度 623,035千円

内容

1-4_駅周辺の交通結節点の改善

住民や近隣教育機関の学生・生徒が多く利用する西高屋駅舎の橋上化に合わせ、公衆トイレや情報ラウンジ等の整備を行い西高屋駅周辺の賑わいや活力の創造を図る。

① 西高屋駅の機能強化のための南北自由通路や駅前広場の整備

(1,089,342千円(前年度623,035千円))

南北自由通路や駅前広場の整備等により、駅へのアクセス性向上及びバリアフリー化を図るとともに、交通結節点機能の改善を行う。

【活動指標】

南北自由通路及び駅舎整備、北口駅前広場整備、用地補償
進捗率 57% (事業費ベース)

■事業スケジュール

	R4	R5	R6
・西高屋駅南北自由通路 延長110m、幅員4m	用地補償	用地補償	用地補償
・西高屋北口駅前広場	工事	工事	工事
・西高屋駅橋上化及び公衆トイレ・情報ラウンジ等	JR委託	JR委託	JR委託

完成イメージ (北口広場側)



令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	4 交通ネットワークの強化
施策の将来の目標像	鉄道や路線バス、広島空港など広域移動も見据えた交通結節機能・広域的な道路ネットワークが強化され、主要拠点間が最適な移動手段で接続されています。日常生活において公共交通の重要性・必要性が広く市民に再認識されています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (H30年度)	目標値 (R6年度)
	国県道整備率	15%	39%

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 高規格幹線道路及び幹線道路交通網の整備	主管部局・所属	都市部	都市計画課
関係部局・所属				

3 目指す姿と戦略

目指す姿	東広島市の慢性的な交通渋滞の解消を図り、産業活動や広域連携の強化につながる幹線道路交通網を形成する。	現状	市中心部の拠点性の高まりにより、交通量が増加し、慢性的渋滞が発生しており、広域利便性を生かした産業活動や広域連携に支障が出ている。		
課題		仮説に基づく戦略		寄与度	戦略No.
高規格幹線道路網及び幹線道路網の整備が遅れている。		国・県幹線道路整備の取組み		中	1

4 成果指標

成果指標		初期値 (年度)	目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7)	国県道路整備率	15 (H30)	15	15	39	39 (R6)	%
(イ)		0 ()				()	
(ウ)		()				()	

5 コスト情報

目的別 事業群 事業費 (千円)	R 年 度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
4 年 度	R	55,220				
	4	26,900				
5 年 度	R	70,087				
	5	15,887				

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	8.5.1 国・県幹線道路整備事業	都市計画課	2.00	55,220	70,087
合計			2.00	55,220	70,087

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」） ※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	4 交通ネットワークの強化	② 高規格幹線道路及び幹線道路交通網の整備

事業の概要				
戦略	1 国・県幹線道路整備の取組み	予算	70,087 千円	前年度 55,220 千円
事務事業	1-1 国・県幹線道路整備事業	予算	70,087 千円	前年度 55,220 千円

内容

1-1_国・県幹線道路整備の促進

慢性的な交通渋滞を解消し、産業活動や広域連携の強化を図るため、広域的な道路ネットワークとなる幹線道路の整備促進を図る。

① 幹線道路整備の推進（753 千円（前年度 753 千円））

国・県幹線道路の整備を推進する期成同盟会の活動費を負担する。

② 広島県が整備する幹線道路事業の促進（69,334 千円（前年度 54,467 千円））

広島県が市内で整備する国県道に係る整備費の一部を、県条例の規定により負担する。

都市計画道路 上寺家下見線、吉行飯田線

◎都市計画道路上寺家下見線（西条西交差点～蓮花寺橋）



撮影日 R4.11

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	5 環境に配慮した社会システムの構築
施策の将来の目標像	地球規模の環境問題等に対応できる次世代環境都市の構築が進展し、環境と調和した潤いのある地域が形成されています。また、構築の過程で生み出されたシステムや成果が、市民の暮らしづくりに効果的に活用されています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (H25年度)	目標値 (R6年度)
	市内の温室効果ガス総排出量	2257.5千t-CO2	1877.7千t-CO2

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 環境に配慮した社会システムの構築	主管部局・所属	生活環境部 環境先進都市推進課
関係部局・所属	財務部	管財課	生活環境部 廃棄物対策課
	産業部	農林水産課	

3 目指す姿と戦略

目指す姿	次世代型の環境都市の構築	現状	地球温暖化対策等に対する取組みが求められている。	
	課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
	気候変動の経協緩和と適応	脱炭素化の推進と強靱化	中	1
	将来像の共有と取組をサポートするシステムづくり	S-TOWNプロジェクトの推進	中	2

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) COOL CHOICE賛同者数	1,683 (R1)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	4,500	5,100	5,700	5,700 (R6)	人
(4) 再生可能エネルギー導入容量	22.0 (R1)		24.0	24.6	25.3	25.3 (R6)	万kW
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)		当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R4年度	R年度	68,411				
	4年度	50,496				
R5年度	R年度	75,041				
	5年度	74,501				

概要シート

まちづくり大綱		施策	目的別事業群
4	活力づくり	5 環境に配慮した社会システムの構築	① 環境に配慮した社会システムの構築

事業の概要						
戦略	1	脱炭素化の推進と強靱化	予算 68,155 千円	前年度 61,680 千円		
事務事業	1-1	庁舎等脱炭素推進事業	予算 25,889 千円	前年度 4,835 千円		
内容						
1-1_庁舎等の脱炭素化の推進と強靱化						
① 庁舎等の脱炭素化の推進（25,889 千円（前年度 4,835 千円））						
市域の温室効果ガス排出量の削減に向け、市が先行的に取り組みを実施することで、その効果を市域全体へ広げ、持続可能な環境都市の実現を目指す。						
ア 福富支所を中心とした脱炭素先行地域の形成						
・ E S C O 事業により、省エネルギー化を目的として、各種設備を導入し運用するとともに、停電時における支所機能の 72 時間維持を図る。 (事業期間：令和 4～14 年度)						
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">E S C O 事業による導入設備</td> </tr> <tr> <td>空調設備、非常用発電設備、太陽光発電設備、蓄電池、照明の L E D 化</td> </tr> </table>					E S C O 事業による導入設備	空調設備、非常用発電設備、太陽光発電設備、蓄電池、照明の L E D 化
E S C O 事業による導入設備						
空調設備、非常用発電設備、太陽光発電設備、蓄電池、照明の L E D 化						
<p>< E S C O 事業とは > エネルギーサービスカンパニーの略で、設備の高効率化を図り、光熱費の削減を進めていく事業のこと。</p>						

事業の概要					
戦略	1	脱炭素化の推進と強靱化	予算	68,155 千円	前年度 61,680 千円
事務事業	1-2	脱炭素化等支援事業	予算	42,266 千円	前年度 56,845 千円
内容					
1-2_地域脱炭素化の推進と強靱化					
【新】① 脱炭素化に向けた取組みの実証等 (2,860 千円 (前年度 0 千円))					
市域の温室効果ガス排出量の削減に向け、公共施設において市が先行的に取組みを実施する。					
ア PPA 事業による太陽光発電設備の導入実装 (うち 1,320 千円)					
<ul style="list-style-type: none"> 公共施設への太陽光発電設備等導入 (民間事業による電力供給) (令和 4 年度ポテンシャル調査等を踏まえ、実施可能な施設から実施) 道の駅等を想定している。 民間事業者による国庫補助事業に基づく事業を想定 					
イ エネルギーの面的融通の実証 (うち 440 千円)					
<ul style="list-style-type: none"> 福富支所周辺公共施設を対象に試験研究機関等と実施 					
ウ 大学と連携した先端技術の実証・実装の実現 (うち 1,100 千円)					
【新】② 脱炭素化に向けた取組みの実装等 (10,923 千円 (前年度 0 千円))					
ア 重点対策加速化事業計画策定等					
<ul style="list-style-type: none"> 重点対策加速化事業計画の実効性を高めるため、CO₂ 定期報告対象施設 (約 300 施設) のうち、排出量の多い施設を対象として、令和 6 年度に太陽光発電設備等の導入を目指す施設の調査を行う。 調査結果を基に、再エネ発電設備を一定以上 (0.5 MW) 導入する重点対策加速化事業計画の策定 					
イ ESCO 事業の推進 (地域センター)					
<ul style="list-style-type: none"> 郷田地域センター、平岩地域センター、高屋東地域センターの空調機、照明機器等更新及び維持管理による省エネ化 事業費：令和 5 年～令和 15 年 202,740 千円 					

事業の概要

③ スマートオフィス・スマートファクトリー化の推進

(11,256 千円 (前年度 11,256 千円))

産業部門、業務その他部門の企業等を中心に CO2 排出量の削減を推進するため、簡易 CO2 ポテンシャル診断、省エネアドバイス、設備改修等に関する補助金申請を行う業務等を委託する。

【活動指標】

支援内容	令和 4 年度実績見込	支援件数見込
省エネ・創エネ相談支援等	13 件	20 件
補助金申請業務等	0 件	20 件

④ 地域の強靱化 (17,100 千円 (前年度 17,100 千円))

ア スマートハウス化支援補助金の交付

市民を対象に、省エネ・創エネの推進や災害時の強靱化を目的に蓄電池等の導入支援を行う。

【活動指標】

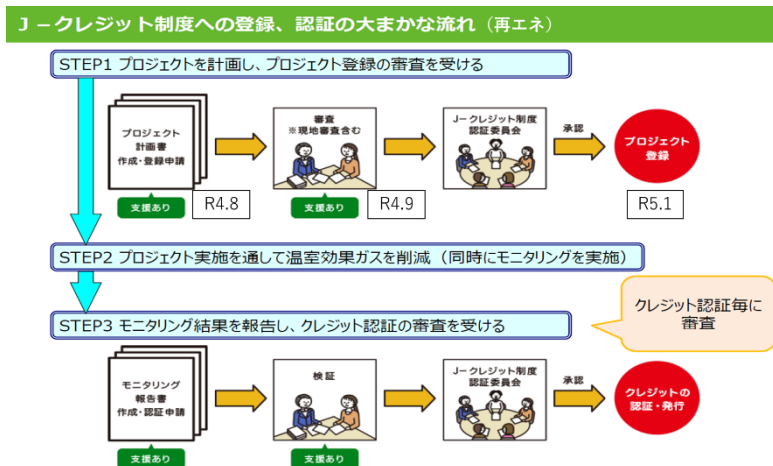
支援内容	令和 4 年度実績見込	支援件数見込
定置用リチウムイオン蓄電システム	131 件 14,081 千円	120,000×125 件
家庭用燃料電池システム	3 件 240 千円	80,000×5 件
電気自動車充電設備 (拡充)	6 件 600 千円	100,000 円×17 件

⑤ 環境価値 (J-クレジット) の啓発 (127 千円 (5,285 千円))

市内で生み出される創エネ等の環境価値を積み上げると共に、市内事業者等に対し制度の周知、浸透を図る。

ア 市民等が太陽光発電設備や省エネ設備等を導入したことによる CO2 削減量をクレジット化

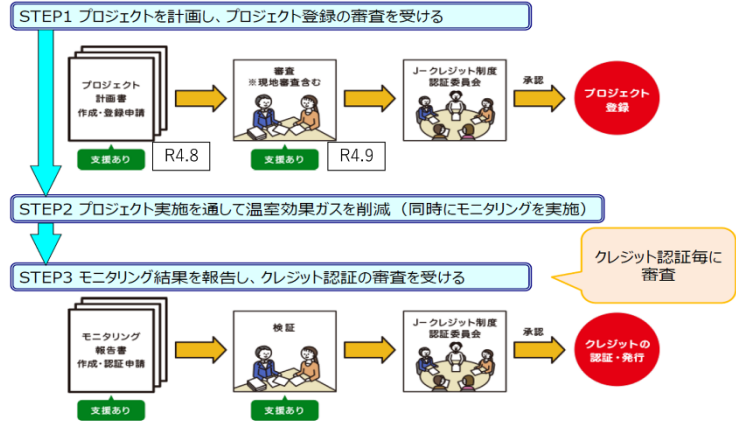
【再エネクレジットの創出スケジュール】



事業の概要

イ 森林整備によるCO2吸収量をクレジット化
【森林エネクレジットの創出スケジュール】

J-クレジット制度への登録、認証の大きな流れ（森林）



Jクレジット創出量 (t-CO₂) 及び価値化シュミレーション

再エネ（蓄電池） 年間新規：150世帯 世帯毎の計画期間：10年間 ※1：クレジット価値 3千円/t-CO₂ ※2：クレジット化経費 検証委託費+報告書作成=2,069千円

	(単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
単年クレジット創出量	(t-CO ₂)	90	327	436	545	654	763	873	873	873
累計クレジット創出量	(t-CO ₂)	90	417	853	1,398	2,052	2,815	3,688	4,561	5,434
クレジット価値 ^{※1}	(千円)		270	1,251	2,559	4,194	6,156	8,445	11,064	13,683
(クレジット) 価値-経費 ^{※2}	(千円)		▲1,799	▲818	490	2,125	4,087	6,376	8,995	11,614

森林 森林整備計画に基づく伐採・植林 ※1：クレジット価値 15千円/t-CO₂ ※2：クレジット化経費 検証委託費+報告書作成=4,004千円

	(単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
単年クレジット創出量	(t-CO ₂)	65	125	211	211	211	182	182	182	182
累計クレジット創出量	(t-CO ₂)	65	190	401	612	823	1,005	1,187	1,369	1,551
クレジット価値 ^{※1}	(千円)		975	2,850	6,015	9,180	12,345	15,075	17,805	20,535
(クレジット) 価値-経費 ^{※2}	(千円)		▲3,029	▲1,154	2,011	5,176	8,341	11,071	13,801	16,531

⑥ 広島大学における脱炭素化の推進

市域内の先行事例として、広島大学の2030年カーボンニュートラルの実現に向け、Town & Gown Officeと連携し、取組みを推進する。

(参考) 脱炭素化に向けた取組み概要

先導的な取組 (市役所) 目標: △51% (市域) 目標: △46%	① 脱炭素先行地域	2030年までに、特定地域内の民生部門の電力消費に伴うCO ₂ 排出ゼロを実現 ⇒2050年にかけて横展開
	② 公共施設等の重点対策	PPAモデルによる再エネ設置(民間事業者からの買電) 再エネポテンシャル調査による導入容量等の把握 ESCO事業(空調・LED・ZEB・PV導入等)による省エネ等 重点対策加速化事業(公共施設施設への再エネ、省エネ設備設置)
市域での取組 (市域) 目標: △46%	③ 産業部門・業務その他部門	スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援(11,256千円/年) ⇒2030年に向け民間の脱炭素化を加速 ワンストップ窓口の整備(再エネ促進区域による地域脱炭素化促進事業の認定等による民間事業の推進) ⇒再エネ導入の誘導
	④⑤ 家庭部門	スマートハウス化支援(15,400千円/年) (蓄電池、家庭用燃料電池)
	④ 運輸部門	スマートハウス化支援(1,700千円/年) (V2H)
	⑥ 行動変容	環境フェア、COOL CHOICE等

事業の概要						
戦略	2	S-TOWN プロジェクトの推進	予算	6,886 千円	前年度	6,731 千円
事務事業	2-1	S-TOWN プロジェクト推進事業	予算	6,886 千円	前年度	6,731 千円
内容						
2-1_S-TOWN プロジェクトの推進						
① S-TOWN プロジェクトチーム会議等の開催 (1,990 千円 (前年度 1,863 千円))						
企業・大学・市等連携するためのプロジェクトチーム会議を開催し、実現可能な事業の企画・検討を行う。						
【主な検討事項】						
○環境配慮型の災害に強いコミュニティの構築						
・再生可能エネルギーの導入推進や災害時の強靱化を推進し、大学、民間研究機関等とともに実証に向けた協議を進める。						
○環境教育プログラム（Web 版環境学習センター）の構築						
・市民の誰もが、いつでも自然環境や地球温暖化対策等を学び、環境に関する情報入手できるように、環境学習プログラム（Web 版環境学習センター）の構築を推進する。						
○市有施設での再生可能エネルギー発電の展開						
・再生可能エネルギーの導入促進を図るため、市有地等への発電設備の設置の検討のほか、遊休地や荒廃農地等の有効活用、既設太陽光の電力の面的融通等を推進できるよう、系統線を利用する P P A モデル等の活用を検討する。						
○食品残渣リサイクルループの構築						
・資源循環の促進に向け、食品残渣のたい肥化・資源化によるリサイクルループの構築を推進する。						
○市民主体の里山活用						
・持続可能な森林の管理・活用を進めていくことを目的に、木質バイオマス、教育やヘルスケア等での空間利用、マテリアル利用等を含む多様な利活用が図られるよう、山への関心、価値の向上、森林の整備を推進する。						
② 環境保全の醸成 (2,940 千円 (2,885 千円))						
ア SDG s × 「COOL CHOICE」等の講演会による啓発						
イ 環境イベントの活動支援						
ウ 地球温暖化対策地域協議会の活動支援						
【活動指標】						
COOL CHOICE の賛同者数：600 件（令和 4 年度実績見込 814 人）						
③ 次世代自動車の普及による脱炭素化の推進 (1,956 千円 (前年度 1,983 千円))						
ア 電気自動車（公用車）・市有施設の EV 充電設備の管理						

令和 5 年度 目的別事業群総括管理 (予算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	6 未来を感じるプロジェクト挑戦都市
施策の将来の目標像	AIやビッグデータなど、最先端技術を活用し、未来の暮らしを先行実現する「まるごと未来都市」を目指す取組みが積極的に展開されています。		
施策の数値目標	指標	現状値	目標値

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 「まるごと未来都市」の形成に向けた取組みの展開	主管部局・所属	総務部 DX推進監
関係部局・所属	総務部	政策推進監	総務部 広報戦略監

3 目指す姿と戦略

目指す姿	デジタル化を活用した社会	現状	デジタル化がすすんでいない分野が多い	
	課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
	市民の暮らし・仕事、地域社会、行政におけるDXが推進されていない	DXの推進による市民の利便性向上	高	1
	まるごと未来都市に向けた機運が醸成されていない	DXの推進に向けた体制整備	中	2
		中山間地域における生活価値の創造	低	3
	SDGsの考え方が広まっていない	SDGsの推進	低	4

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R4	R5	R6		
(7) 市民ポータルサイトの登録者数	19,000 (R3)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	33,000	47,000	60,000	60,000 (R6)	件
(4) 行政手続のオンライン化	59 (R2)		400	500	600	600 (R6)	件
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R 年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
	4		186,505			
			82,102			
	5		163,999			
			43,221			

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R4 当初予算額	R5 当初予算額
				R4 決算額	R5 決算額
1-1	2・1・8 DX推進事業	DX推進監	5.00	144,034	130,980
1-2	2・1・2 DXを活用した広報事業	広報戦略監	0.20	1,452	1,716
2-1	2・1・8 DX体制整備事業	DX推進監	0.40	25,703	14,718
3-1	2・1・7 未来都市形成事業	政策推進監	1.20	5,243	6,314
4-1	2・1・7 SDGs促進事業	政策推進監	1.30	10,073	10,271
合計			8.10	186,505	163,999

7 R5事業費の分析（差額＝「R5年度当初予算額」－「R5年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	分析

8 R5成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	決算時記載
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	

10 総合評価

総合評価	<総評>

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	6 未来を感じるプロジェクト挑戦都市	① 「まるごと未来都市」の形成に向けた取組みの展開

事業の概要			
戦略	1 DXの推進による市民の利便性向上	予算 132,696千円	前年度 145,486千円
事務事業	1-1 DX推進事業	予算 130,980千円	前年度 144,034千円
内容			
1-1_D Xの推進			
① 共通基盤の整備 (65, 634 千円 (前年度 100, 889 千円))			
【拡】ア 市民ポータルサイトのサービス拡充 (うち 14, 256 千円)			
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用カードの新規申込をオンライン化する。 ・住民自治協議会が、希望する住民に対して回覧板や配布物をオンラインで配信するとともに、行事への参加申込等もオンライン化できる機能を開発する。 ・子育てサービス等の既存サービスの改善・改良を行う。 			
市民ポータルサイトの登録者数		29, 165 人 (R5. 1 月末時点)	
【拡】イ 事業者ポータルサイトのサービス拡充 (うち 4, 000 千円)			
企業同士が連携して事業活動を行うためのビジネスマッチング機能を導入する。			
ウ 市民ポータルサイト・事業者ポータルサイト運用保守(うち 47, 378 千円)			
<ul style="list-style-type: none"> ・システム基盤の利用料 ・システムを安全かつ確実に運用するための定期バージョンアップ経費 ・多言語翻訳サービス (英語・中国語・ベトナム語・ポルトガル語) の利用料 			
② 地域と暮らしのDXの推進 (12, 019 千円 (前年度 24, 745 千円))			
ア 提案型課題解決事業の実施 (うち 12, 019 千円)			
地域の企業・団体などから地域課題を募集し、地域と全国の専門人材 (スタートアップ企業や副業人材など) との協創により解決を目指す。			
③ 行政DXの推進 (51, 651 千円 (前年度 16, 717 千円))			
【拡】ア オンライン手続きの拡充 (うち 20, 211 千円)			
<ul style="list-style-type: none"> ・物品役務等競争入札参加資格申請等をオンライン化する。 ・市民ポータルサイトを活用した補助金等をオンラインで申請できるシステムを導入する。 			

事業の概要

- ・マイナンバーカードを活用した住民票や各種税証明書のオンライン請求を開始する。

【新】イ 申請書自動作成システムの導入（うち 11,010 千円）

一部の窓口において、マイナンバーカードから読み取った基本 4 情報（氏名・住所・年齢・性別）を申請書に自動印刷する機器を導入することで、「書かない窓口」を推進する。

ウ その他行政DXの推進（うち 20,430 千円）

- ・会議資料をデジタル化することにより、円滑な会議運営及びペーパーレス化を図る。
- ・職員が行うパソコン操作をRPAで自動実行させることで、事務効率の向上を図る。
- ・AI（人工知能）を取り入れた画像認識や音声認識技術を活用し、紙文書や音声をデジタルデータ化することで、事務効率の向上を図る。

④ データ利活用による政策形成（1,676 千円（前年度 1,683 千円））

ア 情報通信利用状況調査（うち 1,676 千円）

市民におけるスマートフォン等の情報通信機器の利用状況調査を行う。

事業の概要

戦略	1	DXの推進による市民の利便性向上	予算 132,696千円	前年度 145,486千円
事務事業	1-2	DXを活用した広報事業	予算 1,716 千円	前年度 1,452 千円

内容

1-2_DXを活用した広報

① 最新技術を活用した広報（1,716 千円（前年度 1,452 千円））

ア 積極的な市民への情報発信

AI 技術を活用したイベント情報集約サイトを運用する。

事業の概要				
戦略	2	DXの推進に向けた体制整備	予算 14,718 千円	前年度 25,703 千円
事務事業	2-1	DX体制整備事業	予算 14,718 千円	前年度 25,703 千円
内容				
2-1_D Xの推進に向けた体制整備				
① DXの体制整備に向けた外部人材の活用(14,718千円(前年度25,703千円))				
ア デジタル社会推進官の配置(うち8,620千円)				
<ul style="list-style-type: none"> ・会計年度任用職員:週4日勤務 ・DX推進のための庁内調整や専門知識を活かした助言等を行う。 				
イ DXデザイナーの活用(うち6,098千円)				
<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業に勤務の専門人材が得意分野に応じて庁内のDX事業に対して指導・助言を行い対応時間に応じて報償費を支払う。 				

事業の概要				
戦略	3	中山間地域における生活価値の創造	予算 6,314 千円	前年度 5,243 千円
事務事業	3-1	未来都市形成事業	予算 6,314 千円	前年度 5,243 千円
内容				
3-1_中山間地域における生活価値の創造				
【拡】① 「生活価値創造のまち」の具現化(6,000千円(前年度5,000千円))				
福富地域において、循環型経済の確立による地域活性化に資する取組みを進める。				
ア 生活デザイン・工学研究所の運営				
<ul style="list-style-type: none"> ・福富支所への定期的なスタッフの配置、広報活動等 				
イ 里山整備プログラムの組成・運用				
<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備プログラムの活動実施、地域住民とともに取り組むコンテンツの組成 				
ウ 里山整備の全体デザイン				
<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備候補地(企業所有の森林等)の調査、全体デザインの検討 				
エ 拠点施設改修(旧竹仁小学校)整備に係る基本構想・基本計画の策定				
<ul style="list-style-type: none"> ・廃校活用施設の先進地視察、レイアウトや機能に係る地域住民とのワークショップ、建物利用に係る利用意向調査、改修における基本コンセプトの策定、サーキュラーエコノミー拠点整備の検討 				
② 運営に係る経費(314千円(前年度243千円))				
<ul style="list-style-type: none"> ・旅費等 				

事業の概要				
戦略	4	SDGsの推進	予算 10,271 千円	前年度 10,073 千円
事務事業	4-1	SDGs促進事業	予算 10,271 千円	前年度 10,073 千円
内容				
4-1_S D G s の促進				
① 官民共創の推進 (SDGs 推進パートナー支援) (3,725 千円 (前年度 3,210 千円))				
SDGs 推進パートナーとの連携・支援をはじめとした官民共創により SDGs を推進することで、社会課題・地域課題の解決を図る。				
【拡】ア 「(仮称) SDGs 推進アドバイザー」を活用した伴走型支援 (うち 1,265 千円)				
<ul style="list-style-type: none"> ・企業、団体の活動に SDGs をどう活かしていくかを考えるための導入セミナーの実施 ・企業や市民団体・学生等によるプロジェクト形成のためのアドバイザー派遣、具体的なアクションプラン作りの支援 				
【新】イ SDGs 推進パートナーに関する展示 (うち 960 千円)				
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 推進パートナーによる取組みを広く周知するための商業施設等を活用した展示 				
ウ パートナーによる SDGs 活動への支援 (うち 1,500 千円)				
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 推進パートナーが他のパートナーと連携して行う SDGs 促進に資する取組みの支援 				
② SDGs 特設サイトの運用 (4,587 千円 (前年度 4,362 千円))				
ア 特設サイトの運用 (うち 4,142 千円)				
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 推進パートナーによる取組みの見える化、パートナー同士の取組促進のための特設サイトの運用 				
イ 有識者インタビュー動画の作成 (うち 445 千円)				
<ul style="list-style-type: none"> ・特設サイトへの有識者インタビュー動画の掲載 				
③ 市民への啓発 (1,028 千円 (前年度 1,012 千円))				
ア 出前講座等の啓発活動実施				
<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域等への出前講座、セミナー等の実施 				
④ 運営に係る経費 (931 千円 (前年度 1,489 千円))				
<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修、旅費、消耗品費等 				

